

湖底堆積物からの黄砂フラクションと人為起源重金属の抽出

Kosa fraction and anthropogenic heavy metals derived from lacustrine sediments

大田 由貴恵[1]; 玉村 修司[2]; 佐藤 努[3]

Yukie Ota[1]; Shuji Tamamura[2]; Tsutomu Sato[3]

[1] 金大・理・地球; [2] 金大・自然・地球環境; [3] 金沢大・自然計測センター

[1] Dept. Earth Science Kanazawa Univ; [2] Environmental Science and Engineering, Kanazawa Univ; [3] Inst. Nature, Environ. Technol., Kanazawa Univ.

黄砂は日本で春先に観測される風送塵である。黄砂は中央アジアの内陸アジア地域から発生する。近年、黄砂は環日本海の気候と環境に影響していることが示唆された。堆積物中から過去の黄砂の日本海への寄与の変化を見積もるためには、我々は『指標（プロキシ）』を得る必要がある。

我々はバルク分析と粒子分析によって湖底堆積物から『プロキシ』の探索を試みた。その結果、LA-ICP-MSによる粒子分析で、黄砂粒子と(現地の)碎屑物粒子の間の異なる特徴を見出す新たな可能性を提示した。